

#### 4 平成30年度の現状と主な取組について

##### 1) 平成30年度の現状

###### (1) 月別患者数 目標達成状況

年間患者目標数は入院71,194人、外来85,924人とし、月別の目標達成状況については、各月の診療日数により算出しています。

入院患者			入院患者（1日当たり）			外来患者		
年目標数	71,194人		目標数	195.1人		年目標数	85,824人	
月別患者数		達成率	月別1日当たり患者数		達成率	月別患者数		達成率
4月	5,447	90.3%	4月	181.6	90.3%	4月	6,811	95.7%
5月	5,931	94.0%	5月	191.3	94.0%	5月	7,026	93.9%
6月	5,787	99.6%	6月	192.9	99.6%	6月	6,957	94.5%
7月	5,708	95.1%	7月	184.1	95.1%	7月	7,129	96.8%
8月	5,540	92.3%	8月	178.7	92.3%	8月	7,470	92.6%
9月	6,109	105.2%	9月	203.6	105.2%	9月	6,377	100.9%
月累計目標数	35,960人		月累計目標数	196.5人		月累計目標数	43,715人	
月累計実績	34,522	96.0%	月累計実績	188.6	96.0%	月累計実績	41,770	95.6%
前年比			前年比			前年比		
前年同期実績	35,004	98.6%	前年同期実績	191.3	98.6%	前年同期実績	40,824	102.3%

###### (2) 月別医業収益（税抜） 目標達成状況

年間収益目標額は入院2,767,526千円、外来869,960千円とし、月別の目標達成状況については、各月の診療日数により算出しています。

入院収益			外来収益			入院・外来収益計		
年目標額	2,767,526千円		年目標額	869,960千円		年目標額	3,637,486千円	
月別医業収益		達成率	月別医業収益		達成率	月別医業収益		達成率
4月	200,673	86.2%	4月	69,505	96.3%	4月	270,178	88.6%
5月	229,342	95.4%	5月	72,259	95.6%	5月	301,601	95.5%
6月	235,484	104.0%	6月	70,052	93.6%	6月	305,536	101.4%
7月	225,416	96.3%	7月	69,647	93.1%	7月	295,063	95.6%
8月	212,482	90.8%	8月	76,264	93.2%	8月	288,746	91.4%
9月	230,417	101.8%	9月	67,967	106.1%	9月	298,384	102.7%
月累計目標額	1,395,199千円		月累計目標額	434,980千円		月累計目標額	1,836,128千円	
月累計実績	1,333,814	95.6%	月累計実績	425,694	97.9%	月累計実績	1,759,508	95.8%
前年比			前年比			前年比		
前年同期実績	1,288,757	103.5%	前年同期実績	374,703	113.6%	前年同期実績	1,663,460	105.8%

平成30年度上半期の患者数、収益の状況については次のとおりです。

患者数は、目標と比較すると、入院患者数は1,438人少なく（1日当たり7.9人）、達成率は96.0%、外来患者数は1,945人少なく、達成率は95.6%となっています。前年同期と比較すると、入院患者数は482人（1.4%）の減少、外来患者数は946人（2.3%）の増加となっています。

次に、収益については、目標と比較すると、入院収益は61,385千円少なく、達成率は95.6%、外来収益は9,286千円少なく、達成率は97.9%となっています。この結果、入院・外来収益の合計では76,620千円少なく、達成率は95.8%となっています。前年同期と比較すると、入院収益は45,057千円（3.5%）増加し、外来収益は50,991千円（13.6%）の増加となり、入院・外来収益の合計では、96,048千円（5.8%）の増加となっています。

### (3) 一般会計からの繰入金の状況

一般会計からの繰入金については、前年度の決算額等を基礎に算定されています。平成27年度から減価償却費等の費用の大幅な減少があったため、繰入金の対象となる精神科及びリハビリテーション医療の運営に係る費用と収益の差も縮小したことから、平成30年度決算見込額は、計画値より52,684千円少ない652,404千円となっています。これは、前年度の決算額と比較すると、4,852千円（0.7%）減少となる見込みです。

（千円）

区 分	30年度 計画額	30年度 決算見込額	比較（計画・見込）		29年度 決算額
			増減（△）	計画比（%）	
収益的収入	387,017	311,581	△75,436	△19.5	332,210
資本的収入	318,071	340,823	22,752	7.2	325,046
合 計	705,088	652,404	△52,684	△7.5	657,256

## 2) 平成30年度の主な取組

第3次経営改善計画の3つの基本方針ごとの重点的取組事項等は次のとおりです。

### (1) 患者中心の医療の推進

- ① 地域包括ケア病棟の運用、NSTやがん患者・家族支援チーム等によるチーム医療を推進し、当院に求められる医療ニーズに対応した取組を継続しています。
- ② 脳神経外科の新設により、頭部外傷などの受入れを開始したほか、尿路結石の経尿道的手術を積極的に行っている泌尿器科は医師2名体制となり、手術件数の増加に努めております。
- ③ 消化器・栄養センターの機能として、消化器内科・外科の連携を強化するとともに、栄養士等も含めた院内の多職種のスタッフによるチーム医療を提供し、高齢化により増

加が予想されるサルコペニア並びにその予備軍と考えられる対象者を早期発見し、内科・整形外科等の臨床的な介入を進めております。

- ④ 救急患者の受入について、外部からの非常勤医師を確保し、内科系医師と外科系医師を中心とする宿日直勤務体制により、積極的に行っております。また、岩手医科大学附属病院の矢巾町移転をひかえ、地域医療圏の中で求められる救急医療機能を担うこととし、受入れに必要な体制の構築に努めます。
- ⑤ 患者の外来受診時から入院、退院、退院後の生活まで、問題解決の流れを包括的に把握した上でシームレスな支援を行うとともに、入退院支援のほか相談支援や療養支援に取り組み、患者及び地域との信頼関係を構築することを目的とした患者連携支援センターの設置準備を進めています。この取組の一貫として、10月から「入院説明コーナー」を開設しました。
- ⑥ 保健衛生行政に対して医療面から支援する各種健診事業を実施しています。特に医師確保により子宮がん検診を再開するとともに、乳がん検診を女性スタッフが行うなど、より受診しやすい環境づくりに努めています。また、脳神経外科と神経内科の連携により脳ドックの拡充にも努めています。
- ⑦ 受動喫煙対策が強化されつつある中で呼吸器内科による禁煙外来を始めました。
- ⑧ 透析治療を充実させるため、臨床工学技師を増員しました。
- ⑨ 派遣研修、院内研修及び先進施設の視察等を積極的に行い、職員の資質向上に努めるとともに、外部講師による接遇研修等により職員全体の接遇力の向上を図っています。

## (2) 地域医療連携の推進

- ① 地域包括ケアシステム構築へ貢献する地域包括ケア病棟を60床で運営し、患者の在宅復帰支援、地域医療機関への支援の充実を図っています。
- ② 逆紹介率の向上を通じて地域のかかりつけ医との連携を強化しています。
- ③ ホームページの充実、広報もりおかの活用など市民への情報提供の推進を図り、当院の医師のプロフィールや診療内容等が分かる「診療案内」や当院の最新の情報をお知らせする「地域医療連携だより」を地域の医療機関等に提供しています。
- ④ 介護施設等への訪問を実施し、必要があれば入院等の支援を行うことをPRしてまいります。また、移動が困難な施設利用者のために当院の患者輸送車による無料の移送サービスを行っています。
- ⑤ 地域の在宅医療を提供している医療機関を支援するため、在宅療養後方支援病院の拡大を図るとともに、土曜日の開業医等からの紹介入院患者の受け入れを行っています。
- ⑥ 地域への啓発活動の一環として、「市立病院デー」を開催したほか、出前講座に職員を講師として派遣しています。

### (3) 経営改善の推進

- ① 各診療科やコメディカル単位などで部門を設定し、それぞれがアクションプランを作成し、部門相互に取組への協力や進捗管理を行っています。進捗状況については、毎月の院内連絡会議で院内に周知するほか、年2回報告会を開催し部門ごとに取組を発表しています。また、アクションプラン院長賞を設けるなどして、職員の意識向上に努めています。
- ② 医師の確保は、医療の質の向上と収益改善を進める上で最も重要なことであり、岩手医大へ引き続き要請しております。また、併せて県外からの転入希望医師の把握や斡旋情報を収集し、医師確保に努めております。また、国保連市町村医師養成事業により平成30年10月から外科に養成医師が1名配置されました。
- ③ 医学部卒後研修への協力と、病院機能充実と院内医師の自己啓発を積極的に支援するため、基幹型臨床研修病院の指定を平成30年3月に受けることができました。平成31年度からの臨床研修医2名受入れに向けて募集活動を行っています。
- ④ 職員全員が効率的な業務をするよう工夫し、看護補助者等の採用も含めて時間外勤務の削減に努めています。また、看護師の欠員状態を解消するために、年度途中の正職員採用を実現させ、併せて職員定数の取り扱いについても柔軟な対応が可能となるようにしました。
- ⑤ 施設の老朽化に対応するため、長寿命化の計画の作成作業を行っていきます。また、需要が拡大している内視鏡による検査・治療に対応するため、内視鏡室の拡充を中心とした院内のリニューアル工事を平成31年度に予定し、今年度は設計業務を行っています。
- ⑥ 外部経営コンサルタントを採用し、具体的な提言を受けながら経営改善の推進に活用しています。
- ⑦ 市立病院経営評価委員会による経営改善計画の点検・評価のもと、着実な計画推進に努めています。